

【分野名：学際、複合、新領域】

大 学 名	徳 島 大 学
拠点のプログラム名称	ストレス制御をめざす栄養科学
中核となる専攻等名	栄養学研究科栄養学専攻
拠点リーダー氏名	武 田 英 二
<p>《拠点形成の概要》</p> <p>現在、社会構造や生活環境の変化に伴うストレスの増大は、年間3万人以上の自殺者として現れ、ストレスに起因するところとからだの病気による人的・経済的な損失は、日本社会の前に大きな暗雲として立ちはだかっている。食をめぐる環境は、子供の健全な精神発達や青少年期の人格形成にも大きな影響を与える。ストレスが起因となる精神・神経疾患にも対応できる“食”を通じた栄養予防医学を確立することは、国民のこころとからだの健康を保つために極めて重要である。高次機能性食品いわゆる“ブレインフード”を開発するためには、ヒトでの臨床・栄養評価に加え、疾患に結びつくストレスバイオマーカーを客観的に評価出来るシステムが必要となる。徳島大学栄養学専攻が中核となり、薬品科学専攻、医学専攻を加えた本研究拠点は、人間栄養学の、新しい分野を切り開く経験と能力を備えている。我々は、マイクロアレイを用いて末梢血白血球の遺伝子発現を網羅的に解析することで、ストレス反応を簡便かつ客観的に評価する新しいバイオメンタル技術を開発し、うつ病患者に特徴的な遺伝子発現変化を捉えることに世界で初めて成功した。また、極めて少量の生体試料からストレスバイオマーカータンパク質を迅速に検出できるナノバイオデバイスも開発した。これらの成果をもとに、本プログラムでは、疾患発症に結びつくストレス反応を評価できる新しいバイオメンタル技術の確立、ストレスを緩和するブレインフードの開発、及びストレス制御をめざした栄養科学を推進できるCOEを確立し、社会のニーズに応える新しい人間栄養学の創設をめざす。</p>	